１９９１年（平成３年）５月１５日発行　　広　　報　　（No.２３８号）

春―花は感動のメロディー

出発（たびだち）は自立へのメロディー

カナダ

春
SPRING

あなたのにゅーたうんKANADA

発行：金田町　　編集：企画開発課　　☎（0947）22－0555 FAX（0947）22－0782

第四回 金田町少年の主張大会③

きまりについて

金田小六年 利光（としみつ） 愛（あい）

私の家の団地は、夜になると駐車場が車でいっぱいになります。公園の前の道は円とか、三角とか、四角とかの模様がかいてあります。

私が初めて来た頃は花も咲いて、とてもきれいでした。あれは今でも覚えています。

でも私がつまらないなあと思ったことは、公園でした。ただすべり台と砂場があっただけでした。今でもそうです。公園をブランコでもいいから、増やして欲しいなあと思ったけど、どうもできません。ブランコとかは、いつかできるだろうと思っています。

私の家は管理人だそうです。この間、誰かが来て車が邪魔で出られない、と言っていました。そして、私はベランダから駐車場をのぞいてみたら、車がいっぱいで車の前にもう一台の車を横に置いていました。私は、「なんで車の前に車を置くのだろう」と思いました。二日前にもガスの取り替えで車が邪魔で取り替えられない、というのを聞きました。

自分がされたらイヤだけど、自分がして迷惑をかけると何とも思わないかもしれません。公園に昼でも車を置く人もいます。ボールで遊ぶ時にぶつかるかもしれないのでやめて欲しいです。車を前とかに置くのはきっと置く所がなかったからでしょう。でも、置く所がないといって邪魔になる所に置いたら迷惑をかけるのでしないほうがよいと思いました。

アケビ

また、団地の周りで遊んでる時に、たまに見かけることですが、団地の人で犬や猫のお散歩をしている人がいます。ここの団地ではこの犬や猫を飼ってはいけないことになっています。私は犬や猫は好きだけど、飼ってはいけないからガマンしています。

でも、たまに見かけるけど犬を飼っている人がいます。何も言えないのでじっと見ているだけです。私は友達の家でも犬や猫を飼ってる家を見かけます。だから、犬や猫を飼わないで下さい、というポスターを貼っています。私は、夜、野良猫の声をよく聞きます。私は「なんで、ちゃんときまりを守らないのだろう」と思いました。

犬や猫は捨てないで、ちゃんと犬や猫の飼える所の友達に預けるとかして欲しいと思いました。捨てたりすると猫とか犬が可愛いそうなのでやめて欲しいです。それに、もし捨てて他の人にかみついたりしたら、危ないので捨てないで欲しいと思いました。それから、犬を飼うと鳴いて迷惑がかかるかもしれません。猫は臭いとかで団地の人に迷惑をかけるかもしれないので猫や犬を飼うのはやめて欲しいと私は思いました。

ボタン

私達はちゃんときまりを守っているのでしょうか。団地では飼ってはいけないのに、平気で飼っている人がいます。

団地のそうじの日、そうじに出なかったら三千円位お金を払わないけないきまりがあります。もし、三千円を払わなくてよかったらどうでしょう。来る人もいるけど、お金を払わなくてよかったら、来る人が減ると思います。それに来た人だけでするとと、来た人が不幸なので、また来る人が減ってくるかもしれません。そうなると、ゴミが段々増えていくかもしれません。だから、三千円のきまりをつけました。

犬や猫は飼ってはいけないきまりがあります。車はきまりがないけど、私は邪魔になる所に置かないで欲しいと思います。私もきまりを守るため、いろいろと頑張りたいと思います。

私は「みんなできまりを作って、みんなできまりを守りたい」と思いました。

（平成三年二月四日に、総合会館での大会において、発表された分です。）

キリ

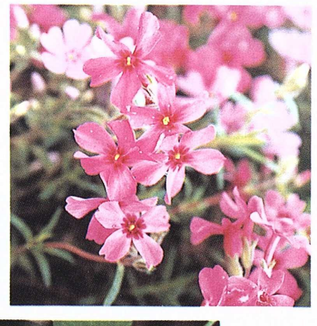
「利光　愛」さんは、昭和五五年二月八日生まれの小学六年生。

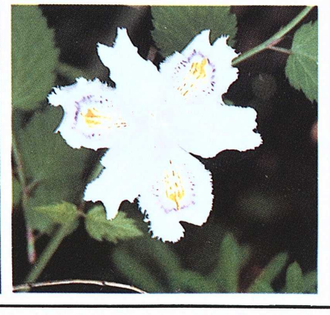
妹と二人姉妹で、お母さんのそのみさんと、大字金田一〇〇七番地の一（県営団地）に住んでいます。

教育長の感想は７頁にあります。

"花"を中心に
地区のふれあいをすすめる。

三区公民館 ふれあい広場





どこかで、見つけた

道辺の花

人づくり 町づくりへの 出発（たびだち）総会

↑４月13日　総合会館にて
〔会長：藤林俊信　他47名〕

青少年育成町民会議
（青少年の健全育成と非行防止のために）

↓４月13日　商工会館にて

金田町商工会青年部
〔会長：大井政和　他22名〕

↑４月10日　総合会館にて

金田町婦人会総会
〔会長：竹宗幸子　他360名〕

竹宗会長より、町が「まちづくり、人づくりへと動き始めています。ゴミなどの環境問題について一番感心あるのは婦人会。婦人会も一役かわなければ」
そして「これから先、婦人会はなくてはならない存在。やはり婦人会と思われる活動を」との決意もありました。

４月23日　商工会館にて➡
（総会後の懇談会です）

金田町商工会婦人部
〔会長：相部孝子　他31名〕

現在、商工会青年部を中心に商工会ＯＢ、商工会、婦人部などで、「まちづくり」についての議論が真剣におこなわれています。「まちづくり」については今後、各行政区毎の懇談会も開始されます。
みなさん、広範で積極的な議論を期待しています。

『春』

私達の住むこのカナダで 学校が、職場が、団体が、動き出す〝出発（たびだち）〟の季節！

「入学オメデトウ、これからお兄ちゃんが名札をつけてあげるよ。
自分につけるのは、簡単だけど人につけてあげるのは、難しいね」と。

小学校での入学式

４月９日

教室に入って、どこから、先生が入ってくるのかな、コワイ先生かな、と室内を見回す新一生生の子どもたちでした。
（ガンバッテネ！）

――中学三年生　修学旅行――

去る、四月二三日から、二六日までの三泊四日の日程で、京都大阪方面に修学旅行に行きました。
今、心待ちにしていた修学旅行という〝たび〟が終ったばかりなのに、今度は来年春に迫った、高校へという新たな〝出発〟にむかって、進まなければなりません。また、社会人という〝出発〟を考えている人もいるでしょう。
（新たな〝出発〟にむかっての中学生のみなさんのガンバリ・ヤル気を　期待しています）

サケの放流

サケの大海原への〝出発（たびだち）〟に際しての事前の映写会が行われました。

３月４日　上金田保育園
〃　　金　　田保育園
５日　神　　崎保育園
〃　　宝　　見保育園
３月６日　ひらばる幼稚園（写真→）

↑「サケを育てる家族」を見て先生より説明を受ける
ひらばる幼稚園の園児たち。

「４年後にはかえっておいでよ」

←サケの〝出発〟（放流）

あいにく12日が雨天のため16日に実施されました。「いつ、帰ってくるの？」とお母さんたちとサケを彦山川に放流する金田・宝見両保育所の園児たち。

花より団子

ではありません。

これは、３月６日、一区公民館において、実施された〝おやつの作り方〟教室の一コマです。

〝子供たちに安全で栄養のあるものをと金田保育所の保護者の皆さんが、田川保健所の栄養士の指導の下で、作ったものです。

実は、この記事を早く掲載をと思っていましたが、おやつの写真を白黒ではおいしく見えないのでは、とチャンスを待っていました。

広報担当係のヤクトクと申しましょうか、いただきました。

（おいしかった）

子どもにとって
母親の手づくりに勝るものは
ありませんね!!

〈感　想〉

田中教育長

自分の身近な問題を見つめて、そこから広く人間社会の「きまり」という事を考えようとする態度はたいへん立派だと思います。

「きまり」というのは、もちろん、その一番はじめは人間が作ったものですね。「何のために」…。「人間の社会とは人と人との約束から出来たものである…」と、フランスのルソーという学者は書いていますが、その通りで、みんなが楽しく平和に生きてゆくためには、どうしても、約束によって出来た「きまり」が必要であるということは、あなたが思っている通りです。

そして、「みんなできまりを作って、みんなできまりを守りたい」という結論もよくわかります。

では、もともと人間自身（みんな）で作ったきまりを守らない、けしからん人がいるのはなぜでしょう。そして、そういう人に対してきまりを守る人はどうすればよいのでしょう。

これはそう簡単にとける問題ではありませんが、それを考える処に成長があります。

アセビ

ボケ

中央公民館――短歌教室

泉水に波紋つくりし椿の花　藤林俊信
落して立つは何鳥ならむ
遠き日に蜜吸ひ遊びしふるさとの　三村和子
鎮守の森にやぶ椿咲く
ひたひたと潮満つるごと春は来て　山口倭子
桜はふふみ吾娘嫁ぎゆく
人里を離れて峡に咲く藤は　渡辺勝由
松に絡みて一隙麗はし

移植せし南天の木は位置しめて　友清隆雄
点されし灯に実がキラリと赤し
散るために咲きしならねどさくら花　阿部重宏
夕べの風につぎつぎに散る
川沿ひの菜の花あまた手折り来て　井手元智恵子
春まだ浅き茶の間に飾る
春雨にぬれつつ咲ける水仙の　上原安子
甘きかをりに足をとめたり
車窓よりふりそそぐ陽ざしやはらかく　小野とめ子
梅の花散る篠栗の駅
幼らの入学の日には開けかし　岡野富司生
校庭（にわ）の花壇のチューリップの蕾よ
年古りし梅の小枝で鶯が　加治智子
仲むつまじく今日も遊べり
花を愛する子になりてかしと野の花を　千手佐起子
手折りて孫の手に握らする
遠賀川の菜種花咲くかなたには　福田昌
黄砂にかすむ英彦の峰見ゆ

ウコギ

金田公民館――句会

講師　岩井鬼童

山桜咲かぬ三分も仰がるる　花石かほる
眼裏に故郷遠しリラの花　沖田トミエ
菜の花の続く河畔や万歩計　永尾喜美江
幾曲り花の吉野をたしかむる　日比生利子
山寺の暮色彩どり連翹（れんぎょう）さく　原美恵子
通院に桜ふぶきを通り抜け　田村君子
童うた残れる里の山桜　建部三由紀
花の空汽笛小さく過ぎる町　香月冨子
竣工の橋をはさんで花菜川　大堀マサヱ
美しく老ひたきものよ花すみれ　末継久信
菜の花の金銀織りの川原土手　佐藤清登
桜茶屋昔ながらの粗（あらた）三和土（たたき）　市川法子
母在ればさくら月夜の手を引かむ

ドウダン

（編集後記）　K・A

広報としては初めての季節号、右往左往する中で、「春号」を発行しました。

色々と、「ここは、このような写真があったら」などとないものねだりでした。

しかし、今後の取材活動の中で、次回発行の季節号のため情報を沢山蓄積しておきたいものです。

〝夏〟号は、
力・汗・エネルギー
を題材として、検討しています。乞う、ご期待。

〝春〟

私達の住むこの地球上の
草花がいっせいに芽をふき
「大地」というキャンパスが
彩られる季節

（中学校の桜）

入学式の頃、いつも
満開で歓迎してくれる
〝さくら〟です。

（小学校の桜）

校庭には、このような
花も咲いていました。

（中学校の中庭）